

# 成田空港二期工事への来年度予算647億円計上弾劾<8・26>

# 「90年二期概成」は事実上破綻



87. 9. 8  
No. 2649

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

## 10・11三里塚へ結集し

## 日帝・中曽根を打倒しよう

八月二十六日、運輸省は、八八年度予算概算要求を発表した。その中で、成田空港関係の事業費に昨年の五八四億円を十一％、六三億円で上回る六四七億円を計上して二期本格着工への衝動をさらけだしている。しかし、これまでの繰り越し金を含めた今年度予算が七月末でわずか二〇％しか消化していないなど、日帝・空港公団の当初の目標であった「九〇年度概成」は完全に破綻してしまった。不屈に闘う敷地内農民と共に、国鉄決戦の成否をかけ、「10・11三里塚」へ全力で結集しよう。

### 二〇％しか予算消化できず

この内訳を見てみると、①第二旅客ターミナルビルの鉄筋組み立てなどに九六億円 ②道路、駐車場整備などに八一億円 ③B・C滑走路造成、エプロン整備などに二三二億円 ④給油施設の整備などに二七億円などが柱となっている。

日帝・空港公団はこれまで、昨年の十月二十七日の二期工事着工以来、一日のべ三百台からのダンブカーを山砂搬入のために敷地内を走らせ、六月にはC滑走路予定地をフェンスで取り囲み、七月には空港東側を走る木の根千代田間の工事用道路着工などを強行してきた。これらは、一見工事が進んでいるように受け止められがちだが、実際の進み具合は大幅に遅れているのである。

公団側発表においても、前年度からの繰越金二・三九億円を含めた今年度予算の事業費七・九四億円のうち、発注契約を終えたのは七月末でわずか二〇％とさきわめて低く、いかに工事が大幅に遅れているかを物語っている。

着工を進めるためのテコとして利用しようとしているのである。

### 「工事の遅れは避けられない」

また、昨年度から五カ年で計画された第五次空港整備五カ年計画で、二期工事に投入される資金は四・千億円に達するが、八六年度で発注した契約額はその四割にすぎないものになっている。

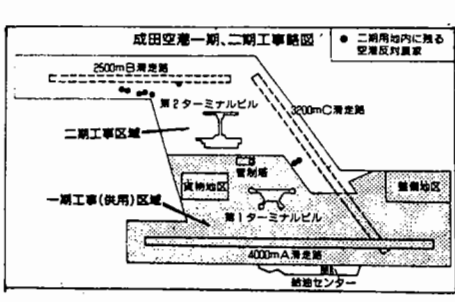
この工事の遅れに対し「消化できない額を要求しても意味がないのでは。六五年度（一九九〇年）概成は事実上無理ではないか」（八・二六朝日）「未買収農家の収用など山積する問題は先送りして工事予定が大幅に遅れるのは避けられない」（八・九千葉日報）など、「九〇年概成」が事実上破綻してしまっただけでなく、次々に報道された。それどころか、八九年には二〇年間の事業認定期限切れがさし迫ってきているのだ。

これは、反対同盟農民の不屈の闘いと、さらに反対同盟を支援する全国の闘う仲間の実力闘争がここまで勝利の展望を大きく創りだしてきたというところが、ますます鮮明になってきたのである。さらに三里塚現地の闘いも日々白熱した闘いを繰り広げている。青年行動隊は、七月十五日に続いて八月九日にも山砂搬入ダンブ実力阻止のトラクターデモを貫徹し、山砂搬入を一日マヒさせるなど不屈に闘いぬいているのだ。

### 国鉄、三里塚、沖縄で日帝・中曽根打倒へ

われわれはこの秋、国鉄、三里塚、沖縄の闘いを結合させ、強制出向攻撃粉砕、二期着工実力阻止、天皇沖繩訪問阻止の闘いに決起し、日帝・中曽根体制を打倒しようではないか。その突破口が「10・11三里塚現地集会」である。二期予算増額を徹底的に弾劾し、「10・11三里塚」へ動労千葉の総力をあげて結集しよう。

このため、今回の概算要求の発表に際しても「消化できない額を要求しても意味がないのでは...。六五年度概成は事実上無理ではないか」との指摘が出た



**2期完成へ増額攻勢**

日帝・空港公団の「90年二期概成」計画はわずか1年をたたずして破綻した。22年間闘う敷地内農民を守りぬけ。

**647億円**

10・11三里塚へ全力で結集しよう!!